

V 校内研究の概要

1. 研究主題 学びを自己選択、自己決定、自己調整できる児童の育成
～『個別最適な学び』と『協働的な学び』の実現に向けた授業づくり～
2. 主題設定の理由

(1) 本校の教育目標に関わって

本校の教育目標を「なりたい自分に向かって、学び挑戦し続ける人の育成ー『あい』のある、『あい』を大切にできる学校ー」と設定し、「あい」をキーワードに以下の項目を重点目標とした。

- ・ I を大切にする…自他の生命、人権を大切にする
 - ・ 学びあい…確かな学力の定着向上
 - ・ 支えあい…豊かな心の醸成・高めあい…健康・体力の向上・繋ぎあい…学校(子ども)を核とした結びつき
- 授業づくりの視点から、この重点目標を達成するためには、互いの違いを大切にできるよう、児童の人権感覚を磨き、仲間とつながり、学び合いながら考えを広げ深められる「協働的な学び」を追究していくことが大切であると考えた。この視点に立ち、特別活動で自他共に認められる集団づくりを工夫したり、日々の授業の中で児童の姿を通して評価し、自らの授業を振り返り、授業改善を続けたりすることで教育目標の達成を図る。

(2) 今日の課題から

今、子どもたちを取り巻く社会環境はめまぐるしく変化するようになってきている。情報化・グローバル化といった社会変化は私たちの予想を遙かに超えて進展していく。そのような時代を生きぬいていく子どもたちには、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、よりよい社会の創り手となることが求められる。そのためには、自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を収集したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を生み出したりするというような力を育てていく必要がある。

そこで、本校では日々の授業の中で、従来の単線的な学びだけではなく、児童自身で『自己選択、自己決定、自己調整』し、学びをより複線化しながら主体的に学習に向き合うことのできる授業づくりを目指す。その中では、前年度まで取り組んできた対話活動（子ども同士の対話、大人との対話、自己との対話、学習対象との対話）などを応用しながら、学びを広げ深めていく。

このような『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向かうためには、児童が自分や他者とその場に応じた向き合い方ができるような集団である必要がある、そのため児童が充実した学びを実現できるような集団づくりも平行して研究していく

(3) これまでの取り組み

本校では令和4年度から、「ペアやグループの対話的な活動」に焦点を当て、自分の言葉で考えを伝え合える児童の育成や、児童が自ら「考えを伝えたい」と思える課題設定の研究に取り組んだ。これらの取り組みにより、学校全体で話し合いの方法や形態について検討、共有することができた。令和5年度は、対話的な学びの土台となる人権教育の視点を加え、引き続き「ペアやグループの対話的な活動」や「対話を促す課題設定」についての研究を進めた。令和6年度は、ペア・グループの対話的な活動を発展させ、「全員参加型」の授業を目標に、学級全体で対話し、考えを深められる授業作りの実現を目指して研究を進めた

本年度は、その対話的な学びの形を自己決定の選択肢の一つとして活用していく。これまで育まれた資質

能力の土台に『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』につながる授業から得る資質能力を上乘せしていきたい。

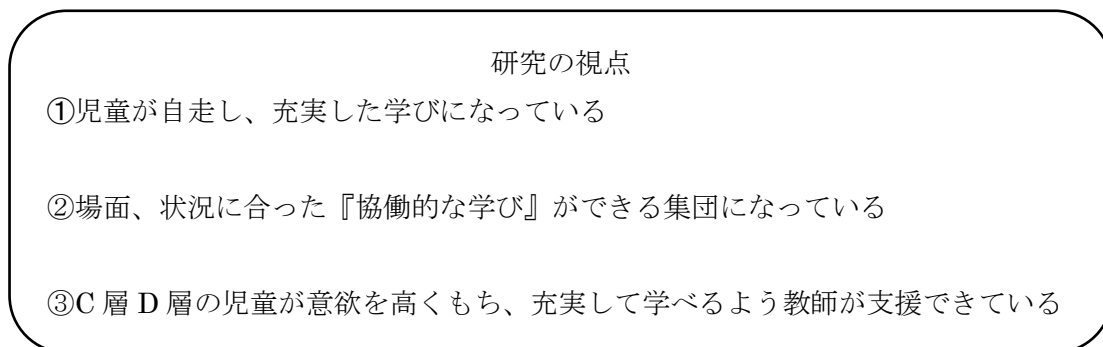
3. 研究の進め方

研究仮説

児童自らが自己選択、自己決定、自己調整しながら他者とも協働的に学ぶことで、主体的・対話的で深い学びを実現し、児童の資質・能力を育成することができる。

研究の視点

上記の研究仮説を検証し、研究の内容を具体化するために、以下の視点を設定する。

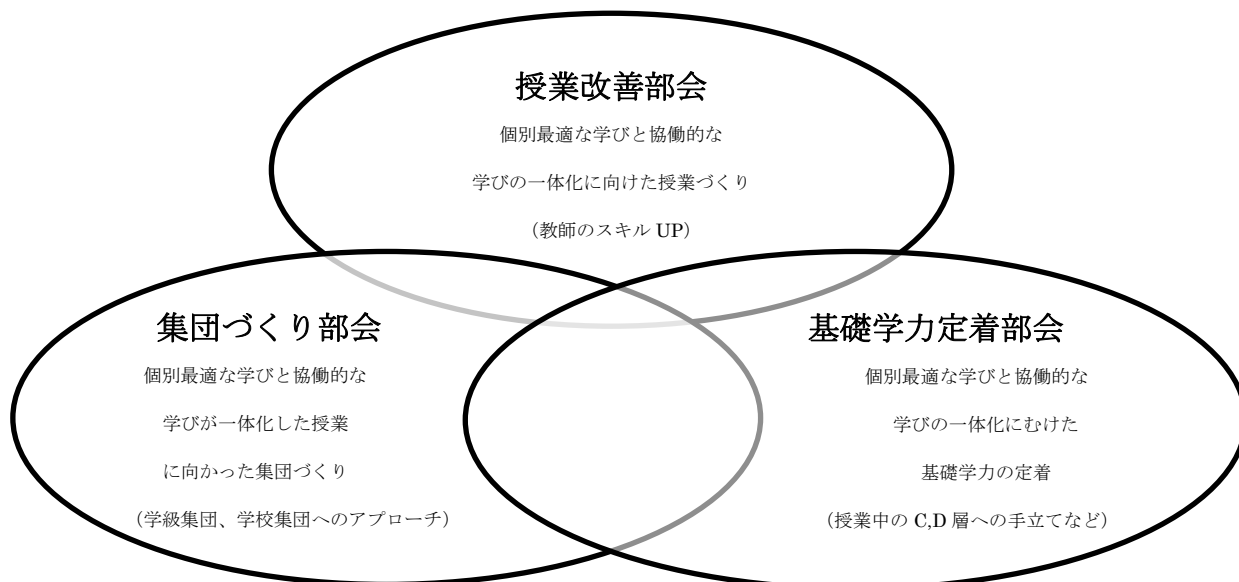


研究の方法

(1) 研究部会・ブロックの設定

授業改善部会、集団づくり部会、基礎学力向上部会の三部会を中心に、主題に沿った研究を進める。また、各学年部会と低・中・高学年ブロックで研究主題に沿った教材研究、指導案検討、授業後の協議を行う。

研究部会



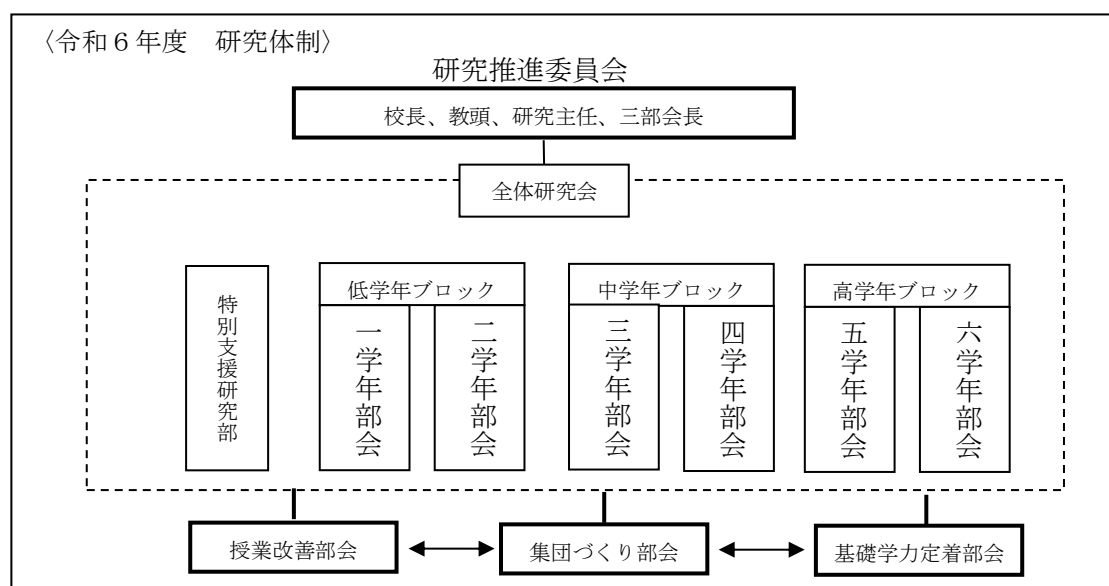
(2) 研究授業

・公開授業

全教員が研究テーマに沿って教材を研究し、指導案（略案）と単元構想図を作成する。事後協議では研究の3つの視点をもとに協議し、授業改善へとつなげる。その際、全教員に成果や課題を発信していく。

・大研（年3回）

各学期で1実践ずつ提案授業を行う。指導案作成に当たっては、学年ブロック、及び教科部会でいい、研究授業後の協議は全職員で行う。



研究の検証について

(1) 児童が自走し、充実した学びになっているかについて

授業中の様子、学習の振り返り、学習アンケートなどから評価する。

(2) 場面、状況に合った『協働的な学び』ができる集団になっている

授業中の様子、学習の振り返り、学習アンケートなどから評価する。

(3) C層D層の児童が意欲を高くもち、充実して学べるよう教師が支援できている

授業中の様子、学習の振り返り、学習アンケート、各種学力調査などから評価する。

4. 研究の計画

年度計画

	活動内容	授業研
一学期	- 研究の概要の説明，研究主題の共通理解 - 授業研究 - 児童，教員アンケート	- 大研① - 公開授業
夏季休業中	全体研修会	
二学期	- 授業研究 - 児童，教員アンケート	- 大研②，③ - 公開授業
三学期	- 児童，教員アンケート - 研究のふりかえりとまとめ - 研究集録作成 - 次年度研究の計画	公開授業

5. 研究の全体構想図

